

I めざす学校の姿

1 学校教育目標

「知・徳・体の調和がとれ、主体的・協働的に行動できる子どもの育成」

2 めざす学校像

- (1) 主体的・対話的な学びを通して、確かな学力を保障する学校
- (2) あいさつと思いやりにあふれ、一人ひとりの子どもの居場所がある学校
- (3) 安全・安心で、保護者・地域に信頼される学校

3 めざす子ども像

- (1) 自ら考え、ともに学び合う子ども
- (2) 互いを認め合い、自分も人も大切にすること子ども
- (3) きまりを守り、最後までやり抜く子ども

4 めざす教師像

- (1) 自己研鑽に努め、授業を通して子どもの成長を引き出す教師
- (2) 豊かな人間性と高い倫理観を備え、誠実に課題解決に向かう教師
- (3) 保護者・地域との連携を大切にするとともに、組織的に対応できる教師

II 経営方針

- (1) 研究授業を核としつつ日々の授業を大切に、授業力の向上に努め、確かな学力の育成を図ります。
- (2) 特別支援教育、人権教育の視点をいかした教育活動を重視し、子ども理解を深め、誰もが居場所のある学校づくりをすすめます。
- (3) 規律ある安心安全な学び場としての学校教育環境を整え、非認知能力（※）を育みます。（※やり抜く力・自制心・自己肯定感・社会性）
- (4) 家庭、地域との信頼関係を築き、地域とともにある学校づくりをすすめます。
- (5) チームで組織的に対応できる仕組みを構築し、組織的な学校運営と風通しのよい働きやすい職場づくりをすすめます。

III 経営方針の達成方策と指標

(1) 授業力の向上と確かな学力の育成

①「算数科」を中心とした授業研究の活性化

- ・丁寧な教材研究と「問い」の工夫
- ・思考の見える化や言語化
- ・授業や家庭学習における「ICT機器活用」の質の向上
- ・授業力UP5に基づいた授業スタイルを確立

(①「資質能力」の明確化②めあて③学習活動（対話的な学び）

④まとめ振り返り⑤端末活用)

- ・経験年数5年以下授業や師範授業を活用したOJTの充実
- ・ライフステージに応じた校外研修会などへの積極的な参加

【主な指標】

- ・指導主事招聘による算数科の研究授業（各学年1回）
- ・アンケート「授業力UP5に関して」（教師：100% 児童：90%以上）
- ・アンケート「ICTの活用に関して」（教師・児童：活用の質の向上 前年度以上）
- ・経5授業，師範授業を活用した国語・算数の自主公開授業（経験年数に応じた回数）

②学力向上の取組の充実

- ・学V i v aセット，「学調」「みえS C」の過去問の活用
- ・学調結果分析と弱みに対応した重点取組の実施
- ・算数学期末テストの活用
- ・読解力向上ワークシートの活用（朝学習）
- ・きめ細かな指導の継続，発展（少人数指導・習熟度別学習の実施）
- ・学習規律の定着（「がんばっ10」の徹底）
- ・家庭学習の充実（「家庭学習の手引き」の共通理解）

【主な指標】

- ・学調分析結果を踏まえた授業改善研修（8月1回）
- ・算数学期末テストの平均正答率（全学年85%以上）
- ・「がんばっ10」強化週間の達成率（全項目85%以上）
- ・アンケート「授業内容の理解に関して」（児童：90%以上 保護者：90%以上）

③読書好きの子どもを育てる読書活動の充実

- ・授業における学校図書館の活用（並行読書，ポータルサイト活用など）
- ・図書館来館を促す取組（図書委員による「図書祭り」などの取組や声掛け）
- ・図書巡回指導員，読み聞かせボランティアの活用
（ブックトーク，図書館の掲示，朝の読み聞かせなど）
- ・家庭読書の取組の推進（「親子読書」，P T A家庭教育学級との連携など）

【主な指標】

- ・児童の年間貸し出し冊数（35冊以上貸出した児童の割合：95%以上）
- ・読み聞かせボランティア活用ののべ回数（低学年20回以上 高学年10回以上）
- ・アンケート「読書に関して」（児童：85%以上 保護者：70%以上）
- ・アンケート「家庭学習に関して」（児童：90% 保護者：85%）

(2) 誰もが居場所のある学校づくり，安心安全な学校環境整備と非認知能力の育成

①特別支援コーディネーターを核とした特別支援教育の推進

- ・校内特別支援委員会の実施（週1回）
- ・専門性向上のための特別支援教育に関する研修会の実施
- ・すずっこファイル，児童生徒理解支援シート活用による途切れのない支援
- ・保護者，関係機関との連携
（支援会議，ケース会議，S C・S L S・支援員等の活用）
- ・「わかる・できる」を実感する特別支援教育の視点をいかした授業づくり
- ・刺激の少ない落ち着いた学習環境の整備

【主な指標】

- ・特別支援教育に関する研修会（1回）
- ・すずっこファイル・子ども支援シートの作成（対象児童分）
- ・アンケート「授業内容の理解に関して」（児童：90%以上 保護者：90%以上）

- ②一人ひとりが大切にされ、新たな不登校や差別、いじめを生まない学校づくり
- ・非認知能力育成に向けた重点取組の設定と取組後の児童の振り返り
(達成感や感動が得られる教育活動や学校行事の充実)
 - ・被差別の子どもを核とした学級づくり (子どもレポート研修会実施)
 - ・子どもたちの言動のよさを価値づけた賞賛の言葉がけ
 - ・いじめアンケートの実施と教育相談
 - ・仲間づくり (学級経営) や人権教育に関する研修会の実施
 - ・「鈴鹿市不登校支援初期対応マニュアル」に沿った対応

【主な指標】

- ・鈴鹿市版非認知能力アンケート (4項目 前年度比プラス)
- ・子どもレポート研修会 (2回)
- ・アンケート「いじめに関して」(児童：100% 保護者：100%)
- ・新たな不登校児童 (0人)

③落ち着きのある生活態度と健全な心の育成

- ・挨拶・時間・言葉遣い・履物・清掃などの凡事徹底
- ・校内環境美化の励行 (環境の乱れ→言葉・心の乱れ→行動の乱れ)
- ・「愛宕小のきまり」(内規含む) に基づいた統一感のある生徒指導
- ・「事案対応シート」活用による問題行動の迅速かつ組織的な対応

【主な指標】

- ・アンケート「挨拶・言葉遣い・チャイム・スリッパ・掃除に関して」
(児童：90%以上)
- ・アンケート「きまり・安全に関して」(児童：100%)

④保護者との信頼関係の構築と学校の危機管理能力の維持・向上

- ・保護者への誠実な対応と「家庭訪問シート」「家庭訪問カード」「電話対応シート」などを活用した記録の保管
- ・保護者の思いを傾聴する姿勢
- ・生活指導部会での情報共有と問題事案の未然防止
- ・生活事故、問題行動などへの対応訓練
- ・危機管理マニュアルの不断の見直し

【主な指標】

- ・問題事案の確実な情報共有 (各シートを活用した記録・回覧の徹底)
- ・生活事故などへの対応訓練 (3回以上)
- ・アンケート「危機管理に関して」(教師：100%以上)

(3) 家庭や地域と共にある学校づくりの推進 (地域に開かれた学校の実現)

- ・生活科・総合的な学習の時間などでの地域人材の活用
- ・学校だよりやHP, メール配信システムなどによる学校情報の発信
- ・愛宕地域づくり協議会との連携による地域行事の活性化
- ・地域との協働による避難訓練や登下校の見守りなどの実施

【主な指標】

- ・地域人材の活用（各学年1回以上）
- ・学校だより発行（20号以上） HP（月2回以上更新）
- ・アンケート「情報発信に関して」（保護者・地域 90%以上）
- ・アンケート「コミュニティ・スクールに関して」（保護者・地域 90%以上）

(4) 組織的な学校運営と風通しのよい働きやすい職場づくり

①二部会や各委員会の活性化

- ・学校経営方針に沿ったP（計画）D（実行）C（評価）A（対策・改善）サイクルを意識した職務の遂行
- ・各部長と管理職との校務の進捗状況の確認（提案内容の二部会前の共有）

②教職員の同僚性の醸成とコンプライアンス遵守

- ・セクハラ・体罰アンケートの実施
- ・コンプライアンスに関わる研修会の実施

【主な指標】

- ・各部長との面談（月1回以上）
- ・コンプライアンス研修会（学期1回）

③子どもと向き合う時間確保のための働き方改革

- ・年間計画，学期計画を立て，計画的な職務遂行
- ・問題行動の即日対応（その日のことはその日のうちに）
- ・校務の効率化
- ・職員会議提案文書の事前確認による会議の効率化
- ・総勤務時間の縮減（前年度実績を上回る）

【主な指標】

- ・学期ごとの行事予定の見直し・確認
- ・月45時間（年間360時間）を超える時間外労働者の年間のべ人数 0人
【令和5年度実績 11人】
- ・一人当たりの月平均時間外労働 20時間以内 【令和5年度実績 22.8時間】
- ・設定した日に定時退校できた職員の割合 60%以上
- ・一人当たりの年間休暇取得日数 20日以上 【令和5年度実績 18.1日】
- ・放課後開催の60分以内に終了した会議の割合 60%以上